

目 次

はじめに.....	1
「ファシリテーション活用支援プログラム」の経緯と進め方.....	1
「ファシ活」に関する会員の意見・提案について.....	2
■ プログラムを活用した<団体：事業名>の紹介	
・ 慶應義塾大学・神奈川県藤沢市： 討議型意識調査（デリバレイティブ・ポール：DP）.....	6
・ 京都・国際ロータリー第 2650 地区： 「ファシリテーター養成研修」.....	9
・ 東京都・特別区職員研修所 平成 23 年度試行研修「特別区民の孤立対策」.....	12
・ 兵庫県・姫路市地域包括支援センター連絡会： 「ファシリテーションスキル研修」.....	14
・ 横浜市・公益財団法人起業家支援財団： iSB 公共未来塾 エンハンスドプログラム 「仕事力アップ講座」巻き込むチカラ.....	18
・ 静岡県・菊川市・社会福祉法人菊川市社会福祉協議会： 「ファシリテーション研修」.....	20
・ 宮崎県社会福祉士会： ソーシャルワーク実践研修「ファシリテーションについて」.....	22
・ 奈良県くらし創造部 協働推進課 地域活動推進係： 「プラットフォーム人材養成研修」.....	24
・ 横浜市立市民病院看護部： ファシリテーション研修「話し合いの場づくり」.....	28

はじめに

2009 年度、2010 年度に引き続き、今年も「ファシリテーション活用支援プログラム（ファシ活）」が 9 の現場で実践され様々な成果や気づきが生まれました。

本報告は、これからも多様な組織とつながり響きあう社会を創り出すために、多くの方にこのプログラムを知って活用していただくために作成しました。ぜひご一読ください。

■ファシ活の経緯（対象が限定的な理由）

2007 年までは、民間の会社からの相談などにも対応して、FAJ の会員に現場を紹介していました。けれども、通常の研修相談などであれば、個別の研修会社などが行っていることであり、NPO である FAJ が実施をする必要性は薄くなっていると認識がされました。

このため、2008 年度からは「公共性」「非営利性」「公開性」などの要件(*注)を満たす依頼に限定して、支援をしていくことになりました。「ファシリテーションを導入したいけれど、資金的な余裕が十分でない公的・非営利な活動」を重点的にサポートしていこうというものです。

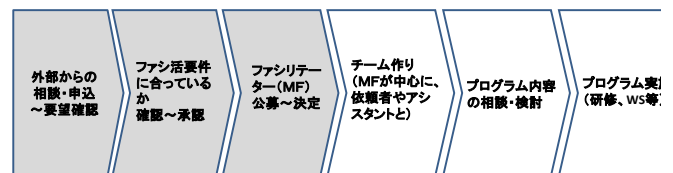
■ファシ活の進め方

大まかに見ると右図のような流れでファシ活は実施されます。外部からの依頼に対して受付を行い、依頼内容がファシ活の要件にあっているかどうかを委員会内で審議します。ファシ活案件として承認されたら FAJ のメーリングリストでファシリテーター（MF）の公募を行い、応募者から適切な方を決定します（右図のグレー部分）。ファシリテーターが決定して以降は、依頼者との実際の打ち合わせは MF が担うこととなります（白色部分）。

MF の選定では、依頼者の要望も含めて、少し矛盾した課題をクリアしなくてはなりません。

「経験のある、案件に知見のある方を依頼したい」という依頼者からの要望がある一方、「現場紹介事業」から引き継いでいる「多くの会員にファシリテーションの現場の機会を提供する」というプログラムの狙いがあるからです。委員会では、依頼案件に対応ができると思われる会員さんの中で、幅広い方にファシ活の機会を提供することを大事に選考させていただいています。

ファシ活進行の大きな流れ



*注：ファシ活の要件

【公共性・非営利性】

本プログラムは財政的に十分でない団体や公益性の高い事業に対する支援が目的であるため、営利目的の事業や、参加費を徴収する事業は対象外です。ただし、公益目的や地域活動等の事業で、徴収する参加費が実費範囲である場合は可となります。

【公開性】

本プログラムは実践事例の紹介を通じたファシリテーションの普及も目的の一つであり、FAJ 会員が現場での活用事例を知る機会の提供も見込まれています。ファシリテーションの活用事例として報告書への掲載も行われます。次の2点への協力が条件となります。

1. ワークショップ・研修などの場にファシリテーター（講師）以外のコーディネーター、アシスタント、見学者などが同席できること。
2. ワークショップ・研修などの様子を本会のニュースレター、WEB、イベントなどを通じて公開できること。

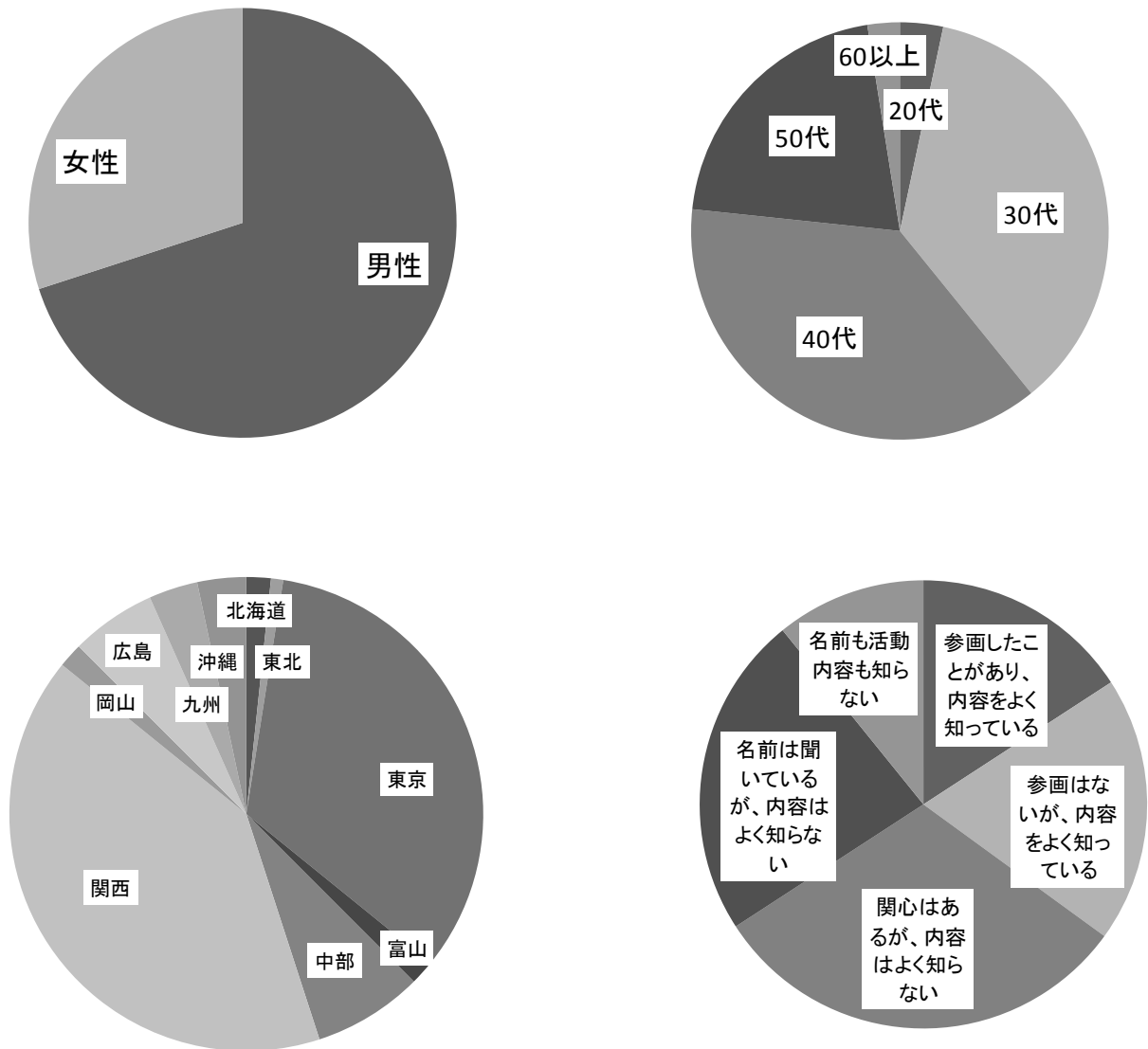
【協働性】

本プログラムは、【企画→調整→実施→評価】という一連の流れ全てを、結成したチームとご依頼者との二人三脚で歩みます。単に「サービスを提供する／される」という関係ではないため、時間的余裕（3 ヶ月程度の準備期間を想定しています）がない事業は不可となります。

「ファッション活」に関する会員の意見・提案について

今年の1月に、ニューズレター編集委員会の協力により「ファッション活」についてのアンケートを行いました。合計120名の方からご回答を頂いています。今回は、特別記事として、この内容をご紹介します。

■アンケートは、どんな人たちが答えているのでしょうか：



回答を頂いたのは、2011年12月に発行した「ニューズレター37号」に対するものでした。回答者の性別では男性が多く、地区では東京と関西が多くを占めています。また、年代では30代と40代が主力になっており、20代や60以上の方からのご意見は少なくなっています。

ファッション活についての認知は、「良く知らない」という方々が6割を超えており、ファッション活がFAJ内にも十分に知られていないことがわかります。「FAJとしてファッション活をどのように展開をしていけば良いか」ということをご意見を頂きましたが、NPOとしてのスタンスまで含め、幅広いアイデアを頂きました。これらの「生の声」と「委員会としての方向性」をお知らせします。

■事業の概要

□主催:慶應大学・神奈川県藤沢市

□事業名: 討論型世論調査(デリバレイティブ・ポール:DP)

□実施期間(企画・準備含む): 2011年4~5月

□実施日・場所:2011年5月27-29日 慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区三田2-15-45)

□参加者数:127名

□担当チーム(FAJ会員):

コーディネーター兼ファシリテーター(モデレーター):小笠原啓一、神山裕臣(東京支部)、百野あけみ(中部支部)

ファシリテーター(モデレーター):浅羽雄介、阿部正幸、岩渕直樹、梅谷秀治、大山路子、竹田和矢、辰巳厚子、樋渡由希恵、増田みつ枝、三宅立晃、矢部典子(以上東京支部)、吉崎利生(新潟サロン)

□ファシ活支援形態(ワークショップ、研修等):モデレーターおよびサブモデレーターとして、15人程度の小グループでの討論を担当

■事業の背景/目的/終了後に目指した姿

①背景:本企画は、Deliberative Poll(討論型世論調査)という、アメリカで開発された新しい世論調査の手法を日本で実践しようという試みです。討論型世論調査は、通常の世論調査のプロセスに、討論と情報提供という過程を加えることで、通常の世論調査と比べて一段階深い市民の意見を引き出すことが狙いです。慶應義塾大学DP研究センターは、昨年1月および8月の藤沢市での討論型世論調査の実績をもとに、今回は文部科学省の科学研究費補助金の支援を受け、全国規模のDPを日本で初めて実施します。

②目的:年金問題における世代間の対立を、討論型世論調査という手法を用いて解決できるのかを検証するものである。

③終了後に目指した姿(具体的に):小グループの討論を通して多様な意見に触れることにより、年金システムの現状についての幅広い知識を得て、未来のあるべき姿が浮かび上がった。

■終了後の感想(主催者/参加者)(プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等)

主催者:モデレーターのみならずレポーターも日本ファシリテーション協会のファシリテーターの方々にやっていただくことにより、小グループ討議の討論が実りのあるものになったことを感謝いたします。また、終了後の振り返りを提案していただき、スタッフおよびモデレーター全体のまとめができたことは非常に有意義でした。

■具体的内容

□実施までのプロセス(企画・準備段階から実施までの流れ)

2011年3月8日 慶應大学より申し込み

2011年4月3日 コーディネーター決定

2011年4月24日 モデレーター決定

2011年5月8日 モデレーター顔合わせ兼モデレーター・トレーニング1の実施

2011年5月27日 モデレーター・トレーニング2の実施

■事業の概要

□主催：国際ロータリー第 2650 地区

□事業名：国際ロータリー第 2650 地区ファシリテーター養成研修

□実施期間（企画・準備含む）：2011 年 3 月 1 日～2011 年 6 月 11 日

□実施日・場所：2011 年 6 月 11 日（土）午後 1 時 00 分～午後 5 時 00 分

京都市下京区 大谷婦人会館 会議室「比叡」

□参加者数：

□担当チーム（FAJ 会員）：メインファシリテーター： 富永良史

サブファシリテーター： 有吉聖治、今岡まゆみ、山内圭子、山上寛之

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：研修 ロータリークラブで実施しているディスカッションを中心とした研修のディスカッションリーダー育成のための研修。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景： ロータリー本部も推奨するディスカッションを中心とした研修でロータリークラブ参加者のモチベーションアップを目指しているが、ディスカッションの進め方で参加者の満足度に違いがある。

②目的： ディスカッションリーダー（以下 DL）の育成にはファシリテーションの技術が必要と考えており、技術を中心とした研修を実施したい。

③終了後に目指した姿（具体的に）： 今回の参加者が DL を経験したあと、その経験をふまえてお手本となっていけるように、ディスカッションで参加者のモチベーションが高まるコツを研修終了後につかんでいる。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等） 良かったところ

- ・ ロータリークラブで実施している研修の中の「先出し質問」の理解ができた。
- ・ ディスカッションリーダーのもつファシリテーターとしての役割を知ることができた。
- ・ 実践的な研修で発言や参加できる機会があってよかった。
- ・ ディスカッションリーダーとして参加者から発言を引き出すために最初に雰囲気や和らげることが役に立つ。

改善を希望するところ

- ・ 研修時間をオーバーしたので時間配分を改善してほしい。
- ・ チェックシートなどを研修の終了時点で確認できるものがあるとよかった。

今後期待するところ

- ・ 何度も研修を受けてみたい。
- ・ ロータリーの研修は、やはりロータリアンにしてもらいたい。

■事業の概要

□主催：特別区職員研修所

□事業名：平成23年度試行研修「特別区民の孤立対策」

□実施期間(企画・準備含む)：4月18日(初顔合わせ)～7月14日(研修当日)

□実施日・場所：7月14日・特別区職員研修所

□参加者数：34名

□担当チーム(FAJ会員)：

メインF 林 加代子

アシスタントF 竹田和矢、増田みつ枝、阿部正幸、中島美暁、豊田倫枝、奥宮健太、辰巳厚子、増平貴之、藤井やすし、鈴木まり子(10人)

□ファシ活支援形態(ワークショップ、研修等)：研修の中のワークショップ

前半で課題の共有・発散の目的でワールドカフェ、後半で課題を深掘りするOSTを行った。メインF、テーブルFを担当した。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

特別区が抱えている、昨今社会問題として数多く取り上げられている独居高齢者問題、児童虐待、多重債務、自殺の増加等さまざまな課題に関して、ソーシャル・インクルージョンの観点から特別区職員の理解を深め、行政の関わり方を探る。

②目的：

- 研修の目的は、シンポジウムでの議論を受け、各自治体でどのような取り組みの可能性があるのか、各現場の職員それぞれに「将来像」を考えてもらう。
- ワークショップでは、具体的にさまざまな分野の特別区職員間での課題の共有と発散、課題の根底にある共通点を深掘し共有する。

③終了後に目指した姿(具体的に)：

- シンポジウムの議論を共有し、現状を理解すること
- それを踏まえて、深い議論をすること
- ファシリテーターの進行を間近に体験すること

■終了後の感想(主催者／参加者)(プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等)

参加者のアンケートより(ワークショップの部分について)

- 自分もファシリテーターとしてNPOの講座など受け持っているので、手法が参考になり、客観視もできた
- ワールドカフェやOSTなど今までやったことのない話し合いの技法で孤立対策について話し合うことができ、有意義でした。これらの技法は仕事の中でも使ってみてみたいです。
- FAJの手際の悪さが残念だった。ファシリテートを行政職員に伝えるせっかくの機会がどこまで理解されるかが不安。
など

■事業の概要

□主催：姫路市地域包括支援センター連絡会

□事業名：姫路市地域包括支援センター連絡会 ファシリテーションスキル研修

□実施期間（企画・準備含む）：2011年8月～11月

□実施日・場所：2011年11月9日 13:30～16:30 姫路市役所 会議室

□参加者数：27

□担当チーム（FAJ会員）：

コーディネーター：世良 メインファシリテーター：久保

テーブルファシリテーター：有吉、神田、村上、森田、水江、山上

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

姫路市内の地域包括支援センター管理者を対象にしたワークショップ型研修（一部希望参加者あり）

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：厚労省の中央研修（IPF）に伊東氏参加。その後、連絡会世話役相手に実施、好反応を得る。

その結果、姫路市全体のセンターに普及するため、今回の管理者対象の研修に企画。

②目的：管理者として、話し合いをうまくすすめるために

ファシリテーションの基本を理解することにより、

会議運営能力の向上や地域ネットワーク構築のためのスキルアップに繋がりたい！

③終了後に目指した姿（具体的に）：

ファシリテーションの「場のデザイン」の流れを実践することにより、

●その効果を体験できている

●今後の話し合いに活かせるイメージが明確になっている

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

主催者より：・具体的に現場で活用するイメージが獲得できたようだ。

・参加者の表情がイキイキしていた。これを機会に、今後も支援をしてほしい

参加者：（参加者アンケートより抜粋）

・具体的な実践が出来る方法が理解できてよかった。

・次回の包括内のミーティングで①ひとり一回は話す事のルールを作る。

②自由に話せる雰囲気作りをする③話合のテーマを事前に準備する。

・地域での会議に何かを使いたい。とてもおもしろく参加させていただきました。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

●8月8日 主催者面談 姫路市香寺地域包括センター

内容： 今回の背景・目的確認、対象者等実施要綱の確認

●9月7日 メンバーミーティング 兵庫県神戸市 ネグジット総研会議室

内容： キックオフ、姫路ファシ活の場の成功の定義の確認、目的・ゴール、ルールの確認

●9月14日 Skypeミーティング

■事業の概要

- 主催:公益財団法人起業家支援財団(受託:尾崎達彦経営事務所尾崎達彦経営事務所)
- 事業名:ISB 公共未来塾 エンハンスプログラム「仕事力アップ講座」巻き込むチカラ

- 実施期間(企画・準備含む):10月中旬～12月17日
- 実施日・場所:12月10日、17日 横浜
- 参加者数:12月10日:15名、17日:13名
- 担当チーム(FAJ会員):チーム名:TeamSKY24 田中やすひろ(MF)、菊地敦子、須永裕之
- ファシ活支援形態(ワークショップ、研修等):研修(1コマ1.5時間を1日で2コマ)

■事業の背景/目的/終了後に目指した姿

①背景:

内閣府の「地域社会雇用創造事業」の一環である社会起業家育成プログラム「iSB 公共未来塾」を受講する一般市民向けに、社会起業に必要なスキル・知識を身に付ける「研修プログラム」。

②目的:社会起業・町おこしの実行過程における意思決定の現場で活用が期待されるファシリテーションのスキルを身に付け、受講者間の交流が促進されるような講座を提供し横浜の地域活性化に寄与する。

③終了後に目指した姿: 実際アウトプットを出す経験をしてもらい、受講者が「持ち帰れる何か」があり、ファシリテーションって「明日から使える!」と思ってもらえること。

■終了後の感想(主催者/参加者)

□主催者 アンケートの結果などからも分かる通り、受講生からはなかなか評判もよく、運営側としてはまずは安心といったところです。やはり内容が分かりやすく、ワーク中心で受け身の講座にならなかった点が受講生の評価の高い要因ではないでしょうか。全体的に概ね良かったと思いますが、強いてあげるならば、せっかくアシスタントが2人いるのに、若干活用度が低いように感じました。外部から見ているだけなので本当は違うのかもしれません、少し手持ち時間が多いいのかな、と感じました。

□受講者 Fの定義がわかった。人々の意見をまとめていくポイントがわかった ・Fを体感でき、失敗し、何がまじりかかったか振り返れたこと ・机、椅子の配置だけで関係性が変わることが参考になった ・レイアウトとGWを体感できるスタイルのレクチャーで良かった ・発散と収束について:収束させる方法に分類があれば知りたい ・プレゼン資料がわかりやすく、グループワークが多かったので自発的に身をもって体験できてよかったです。 ・ファシリテーターがいる意義をワークをすることにより実感としてわかりました ・講師が話すことが少なくとも受講生はたくさん学べるんだと実感! ・ファシリテーターとリーダーの資質の違いを詳しく学びたい …等々

■具体的内容

□実施までのプロセス(企画・準備段階から実施までの流れ)

10/15 主催者側との初打合せ 10/30、11/13 主催者側とのコンテンツレビュー2回
11/26 主催者側とのコンテンツレビュー最終(約3時間) ※その他チーム会議4回実施

□実施(支援)内容

<12/10(1日目)>

14:45 自己紹介(全員)、講座の概要、ゴールの共有、講座のお約束

■事業の概要

□主催：宮崎県社会福祉士会

□事業名：ソーシャルワーク実践研修「ファシリテーションについて」

□実施期間（企画・準備含む）：平成23年12月15日～平成24年2月19日

□実施日・場所：平成24年2月19日（日）9:30～16:30 宮崎市J A・A Z Mホール小研修室

□参加者数：39人

□担当チーム（FAJ会員）：

メイン講師 古賀弘規 アシスタント 吉元寿林 長峰ヒロ子 梅谷秀治

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：

ワークショップ形式を中心とした体験型ファシリテーション研修

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：

介護の世界では人と人の調整を行うことが多いが、現実としてはなかなかうまく行かないことが多い。こういった話し合いをうまくいかせる手法を学んでもらいたい。

②目的：

ファシリテーションに対しての気づきを得て、合意形成の流れを体得し、カンファレンスやケア会議、グループワークなどに非常に有効と参加者に感じてもらう

③終了後に目指した姿（具体的に）：

明日からすぐにでも活用できるようなものを持って帰ってもらう

特に職場内で活用できるもの（カンファレンス、会議など）を身につける

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

参加者へのアンケートで今後どのような研修を受けたいですか？という問いに対して、「ファシリテーションの次のステップ希望」「ファシリテーション中級編」など書かれていました。「早速明日から、会議で実践したいと思います」などの意見もあり、研修のねらい通りの気づきになったのかなと感じられました。主催者からも「社会福祉会としても継続して会員を支援して行きたいと思っています、是非次の機会を企画できればと思いますのでそのときはお力添えをお願いします」との言葉を頂きました。

■具体的内容

□実施までのプロセス（企画・準備段階から実施までの流れ）

1. 研修担当者との打ち合わせ、ヒアリングを実施…研修の目的、目標、現状などを調査
2. メーリングリスト開設、ファシ活アシスタント募集
3. 研修企画の立案
4. テキストの作成…メーリングリストに投げかけて改訂作業を実施
5. 事務局との事務的なやりとり（特に報酬の件） → 実施へ

□実施（支援）内容

1. ファシリテーションの必要性

グループワークで役割シートをつくって、うまくいかない会議を実演し必要性を感じてもらおう（右写真 グループワーク）



□主催：奈良県くらし創造部 協働推進課 地域活動推進係

□事業名：「プラットフォーム人材養成研修」

□参加者数：約 148 名（37 名×4 会場＝148 名）

□プログラムを担当したF A J会員

コーディネーター兼ファシリテーター：二宮久美香（中部支部）／アシスタント：平野剛志、野田一成（関西支部）／プログラム担当：藤井俊行

見学者：田中典子・藤原正幸・立花慶治・稲垣友美・藤井康嗣・今岡まゆみ・飯塚智行（関西支部）

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由<主催・依頼者>

奈良県では、NPO、自治会、学校、事業者、行政等が協働で地域の課題を解決する「協働型の地域社会づくり」を進めております。その一環として、地域の団体が集まり話し合いをする場（地域プラットフォーム）を設けることを提唱し、昨年度に実際にモデル地域で運営し、その過程を検証しました。その中で、ワークショップデザインやファシリテーションの重要性を実感したところです。そのため今年度は、地域プラットフォーム運営のための手法を学ぶ研修を、ワークショップデザインやファシリテーションのスキルを身に付けるための研修を中心として実施したいと考え、ファシリテーション活用プログラムに応募させていただきました。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④<主催・依頼者>

①背景：昨年度、地域プラットフォームをモデル地域で運営し、過程を検証した中で、ワークショップデザインやファシリテーションの重要性を実感したため、地域プラットフォーム運営のための手法を、地域住民や市町村職員が学ぶ研修を行うこととした。

②ねらい：地域住民及び市町村職員が地域プラットフォームを立ち上げ、企画・運営できるようにするとともに、話し合いをファシリテートできるようにする。

③成果イメージ：地域の様々な団体が地域の課題を認識・共有し、将来の方向性や魅力的な地域にするための計画づくりを一堂に会して話し合う場（地域プラットフォーム）が、県内各地で立ち上がる。

④成果（終了後）：研修の参加者が、ワークショップを通じて地域の様々な課題を認識し、共有し合うことができた。現在自分の住む地域で、何が問題になっているかという事を認識できた。また、実践的なグループワークを通して、ファシリテーターの心得・手法を身に付けることができ、地域の課題解決や活性化につなげる意識の共有ができた。

□形式： ●ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：

実施日時：2011年11月13日（日）～2012年2月25日（土）

	宇陀会場	橿原会場	生駒会場	奈良会場
第1回	11月13日(日)AM	11月13日(日)PM	11月23日(祝)AM	11月23日(祝)PM
第2回	11月27日(日)AM	11月27日(日)PM	12月3日(土)AM	12月3日(土)PM
第3回	2月5日(日)AM	2月5日(日)PM	2月18日(土)AM	2月18日(土)PM
第4回	2月12日(日)AM	2月12日(日)PM	2月25日(土)AM	2月25日(土)PM

■事業の概要

□主催： 横浜市立市民病院看護部

□事業名： ファシリテーション研修「話し合いの場づくり」

□実施期間（企画・準備含む）：

9月6日～3月2日（依頼者との打ち合わせ2回、アシスタントとの打ち合わせ2回）

□実施日・場所：2012年3月2日 横浜市立市民病院

□参加者数：27名（専門・認定看護師16名、臨床試験担当看護師1名、看護師長8名、副看護部長2名）

□担当チーム（FAJ会員）： ファシリテーター：浦山絵里、アシスタント：鈴木慈子

見学：新開佐和子 中島美暁 佐藤成臣 富澤崇 コーディネーター：新開佐和子

□ファシ活支援形態（ワークショップ、研修等）：ワークショップ型研修

教育担当看護師長にヒアリングをした後ファシリテーションや参加型の学びについて説明した。その後担当者と共にテーマやゴールを設定、ファシリテーションのスキルを享受する場だけではなく、体験の場にしたいという双方の意向から、「話し合いの場づくり」を、実際に実践を通して学ぶデザインとした。

■事業の背景／目的／終了後に目指した姿

①背景：認定看護師と臨床試験担当看護師は特定領域における専門家である。その活動は実践、研究、コンサルテーションと規定されている。他の専門職と活動する機会も多く、それぞれの専門性を活かした話し合いの場づくりのために、ファシリテーション研修を企画した。

②目的：実践につながる学びを得ることを目的に以下の目標を設定した。

1) ファシリテーションについて知る 2) 参加、協同のプロセスについて知る

3) 話し合いの場づくりについて考え、話し合いの作戦を立てる

③終了後に目指した姿：話し合いの活性化に生かすファシリテーションスキルがわかる。

それぞれの具体的な「明日からやってみよう！」が生まれる。

■終了後の感想（主催者／参加者）（プログラムを活用して良かったこと・成果や改善点・今後の期待等）

- ・「もっと学んでから取り入れた方がいいのでは」と慎重になっていたが、事前打ち合わせで「話し合いの場づくりとしてやってみましょう」に後押しされた。
- ・いつもとは違う遊び感覚を取り入れた研修で、前に出るのに苦手意識を持った人ものめりこんでいた。
- ・今回はファシリテーションの練習で話し合いの場をもったが、テーマや中味が現実的で本物だった。
- ・連絡会ではいつもグチで終わるのが、こうやっていきたいという主体的なアクションが起こった。
- ・「グチがあるってことは願いがあということ」という言葉に参加者がスッキリした表情になっていた。
- ・看護師長全員が参加できたらよかったが、参加したメンバーが主体となってファシリテーションを活かした話し合いの場を分科会レベルから始めてみよう、という声があがった。

